

第8組インターシティ・ミーティング報告

IM実行委員長

喜多敏明 (大阪平野RC)

去る3月1日(土)グランフロント大阪北館にて、テーマを“Live Talk on The Earth ~ロータリアンと学生の国際貢献~”として第8組インターシティミーティングを開催しました。当日は127名の参加を得ました。

開発途上国の現状を学ぼうと、国連ユースボランティアの学生たちが世界の各地で活動しています。そんな活動の現状をスカイプという通信手段を用いて、その学生たちの生の声を聞いてロータリアンの国際貢献のヒントを得ようと考えました。

立教大学、上智大学、東洋大学、明治大学、関西学院大学の皆さんとお話させていただきました。カンボジア、ネパール、フィジー、ルワンダ、ケニア、ボスニア、サモアでの生活の様、仕事の内容、彼らが感じたいろんなことを聞くことになりました。IM8組の国際奉仕委員長の皆様にも、彼らに直接質問をしていただきました。

言葉の大切さ、習慣の違い、各地で起こる紛争など興味深い話が聞くことができました。現代の若者は云々という声が聞こえますが、こうやって頑張ってくれている若者がいることを誇りに思い、ロータリアンの奉仕活動についてもいろいろと考えさせられる場面がたくさ

んありました。

コーディネーターとして関西学院大学の關谷武司教授にお願いをいたしました。また元駐ドイツ大使で現在関西学院大学副学長、神余隆博様、国連ボランティア計画職員の梨本篤司様にもお話をいただきました。関西学院大学の学生さんたちには企画段階から協力いただきました。

關谷教授とのつながりは3年前の東北大震災にさかのぼります。一人のクラブメンバーが關谷教授の生涯学習の授業を受けたことが始まりです。学生さんたちの支援活動を聞き、当ロータリークラブが協力を申し入れたのです。南三陸の子供たちと運動会や社会見学の支援活動を共に行いました。また關谷教授の世界市民論の授業で、当クラブの世界社会奉仕の現状をお話しする出前授業も3回、実現いたしました。そんな繋がりのなかで今回の企画が出来上がりました。

開発途上国の電波状況に不安をいだきながら取り組んだ手作りのIMでした。多くの皆さんの協力に感謝し、最後までたくさんのロータリアンが残って熱心に討議いただいたことに重ねて御礼申し上げます。

